

日本応用経済学会ニュースレター

Japan Association for Applied Economics Newsletter

第14号 2022年10月

日本応用経済学会事務局：〒819-0395 福岡市西区元岡 九州大学経済学部

TEL/FAX：080(5321)7299

E-mail: jaae@jaae.org

<http://www.jaae.org/>

目次

会長挨拶

武野先生ご逝去にあたって

理事会報告

学会誌編集委員会

学会賞選考委員会

国際交流委員会

学会誌への投稿について

紹介！研究室

編集後記

2021 年度決算資料

2022 年度予算資料

I. 会長挨拶

日本応用経済学会
会長 焼田 党

2022 年度春季大会において会長を務めさせていただくこととなりました。2 期目となりますが、2 年間よろしくお願い致します。

第 1 期の 2 年間は「新型コロナウイルス感染症（コロナ禍）」に始まり、コロナ禍に終わった印象があります。この春の熊本大学での大会では久しぶりの対面開催となり、この秋の同志社大学での開催も対面開催の予定です。大会中に「懇親会がなければ、…」という声をお聞きしました。小生もそのようなご意見には賛成です。しかし、秋季大会でも学会としての懇親会は控えさせていただく方針です。小職が勤務している大学でも大人数の会食は控えるように言われています。学外での会議でも「黙食を」といわれていますので、従わざるを得ないというところかと思えます。先日イギリスのエリザベス女王の葬儀の中継がテレビで放映されていましたが、参列された天皇皇后ご夫妻の飛行機での到着時のマスク姿と葬儀参列時のマスクなしのご様子の対照が印象に残っています。いつ日本でもみんながマスクを取るのだろうか。次回には状況が変わり、懇親会を開催できることを期待しています。学会参加の大きな意義は、研究集会ではありますが、学会員同士の懇親の側面もかなり大きいと考えています。

機関誌『応用経済学研究』第 15 巻には 8 本の論文が掲載され、学会員の皆様のご研究がコロナ禍に影響されていないように推察しています。熊本での春季大会の研究報告件数も、増えてはいませんが、大きくは減っていなかったように感じています。総会でご承認いただいたように、発行時に即オンライン掲載ではないのが残念ですが、2 年遅れで WEB に掲載されることにな

ります。ただ、投稿数が確実に増加傾向にあるとはいえません現状です。大会でご報告いただきました論文だけでなく、ご報告いただかない論文でもぜひ投稿していただきたくお願いします。継続的に掲載数があることが『応用経済学研究』の評価をさらに高めることにつながると確信しています。

大学院進学者数が日本全体として大きくは増えていないような印象にもかかわらず、幸い本学会では少しずつではありますが会員数は増えているように認識しています。重ねてのお願いで恐縮ですが、今後とも周りの研究者の方々にぜひとも応用経済学会へのご加入をお勧めくださるようお願いいたします。

II. 武野先生ご逝去にあたって



武野秀樹名誉教授が本年 5 月 14 日に亡くなりました。享年 93 歳でした。突然の訃報に接し、信じられない気持ちです。私ども九州大学で先生の学恩を受けましたものにとり、大きな喪失感で胸をひしがれています。

武野先生は昭和 28 年 3 月九州大学経済学部を卒業され、同経済学部助手をへて、教鞭をとられました。当時はマルクス経済学全盛時代で、

ゆるぎない信念で近代経済学の明かりを掲げ続けることはどんなに大変だったか想像されます。昭和52年に九州大学経済学部の第三の学科経済工学科の開設に貢献され、今日の九州大学経済学部の新しい姿を作られました。平成3年3月退官後は引き続き九州産業大学、兵庫大学教授として教育研究に携わられました。この50年の長きにわたる教育・研究に対して、平成21年秋の叙勲において「瑞宝中綬章」を受賞されました。

先生の研究領域は、国民経済を体系的に記録するシステムである国民経済計算体系の構造と特徴を総合的に解明する研究分野で、とりわけ、国際連合で作成されてきたSNAに対応する日本版SNAおよびその改訂SNAの枠組みについての課題をいち早く検討され、この分野の第一人者として大きな貢献をされました。

武野先生は西日本地区の近代経済学の研究者とともに昭和43年に西日本理論経済学会を創設され、その事務局をお引き受けいただき、当時まだ黎明期にあった近代経済学の若手研究者の研鑽の場となりました。この間、全国的な研究交流を踏まえて、西日本理論経済学会は平成18年に日本応用経済学会へと衣替えし、現在、学会員500名以上の全国的な応用経済学研究のプラットフォームとして発展しています。武野先生の本学会への貢献に対して平成19年に名誉理事の称号が授与されました。

日本応用経済学会の創始者として、今後の学会の発展を見守りいただきたいと思います。去る8月11日、博多の妙楽寺で蝉しぐれのなか初盆がありました。生前のご厚情に深く感謝いたします。

令和4年10月14日
熊本学園大学 細江守紀

III. 理事会報告

III-1. 2021 年度第 4 回理事会報告

日時:11 月 13 日(土) 10 時 30 分~11 時 30 分

会議形式:Zoom 使用によるオンライン会議

出席者:焼田、藪田、長岡、成生、福重、木原、坂上、青木、大川、田中、細江、三浦、中山、渡辺、藤田、堀、小川、土居、瀧本、柳瀬、大森、内藤、大内田、伊ヶ崎、赤羽根、中村(大)、野崎、池下、以上、28 名

司会の藪田常務理事から開会の挨拶があり、議事に移った。

議題

1. 新入会員・退会員承認

事務局から資料1に基づき説明が行われ、新入会委員3名、1名のシニア会員への変更、1名の退会が承認された。

2. 編集委員会報告

福重編集委員会委員長より編集進捗状況について資料2に基づき報告が行われ、承認された。

3. 国際交流の件(実績報告)

事務局より資料3に基づいて、国際交流の実績について報告された。

4. 2021 年度学会賞選考スケジュール(案)

長岡学会賞選考委員長より、資料4に基づき、2021 年度の学会賞選考スケジュールの説明が行われた。

5. コロナ出版企画の著作物について

コロナ出版企画「新型コロナ感染の政策課題と分析」が発刊されたことが報告され、会員への配布について、令和2年度会費納入者のうち、申込の先着100名に対して配布で行うことが企画担当の細江理事より提案され、了承された。

6. 『応用経済学研究』のWEB掲載について
焼田会長より、『応用経済学研究』のWEB掲載についての修正案が提案され、了承された。

7. 来年度春季大会プログラム委員長について
藪田常務理事から次年度春季大会のプログラム委員長に今後、選定することが説明され、承認された。

8. その他
なし。

報告

1. 2022（令和4）年度春季大会について
藪田常務理事より、2022年度春季大会が令和4年6月25日、26日に熊本大学で開催されることが報告された。

III-2. 2022 年度 第1回理事会報告

日時：6月25日（土）10時30分～11時25分
会場：熊本大学文法学部棟2階 共用会議室

出席者：焼田、長岡、福重、坂上、永星、細江、渡辺、小川、瀧本、柳瀬、大森、内藤、大内田、森田、野崎、池下（事務局幹事）、熊谷（事務局幹事）、池田（大会実行委員長）、以上、18名

司会の坂上常務理事より挨拶が行われた。続いて、開催校の池田実行委員長より挨拶が行われ、

議事に移った。

議事

1. 新入会員・退会員承認

事務局より資料1に基づき、新入会員13名、シニア会員申請1名、退会5名が報告され、承認された。

2. 令和3年度会計報告

永星常務理事（財務担当）より令和3年度会計報告が資料2に基づいて行われた。続いて、監事の森田氏より、適正に処理されていると会計監査報告が行われ、承認された。

3. 令和4年度予算（案）

永星常務理事（財務担当）より令和4年度予算案について資料3に基づいて事務局より説明され、承認された。

4. 編集委員会報告

福重編集委員長から資料4に基づいて第15巻の発行報告、ならびに第16巻の編集状況について説明が行われ、承認された。

5. 学会賞選考委員会報告

長岡学会賞選考委員長より、資料5に基づいて学会賞、学術論文賞、著作賞の授賞者について説明が行われ、承認された。次回の選考から推薦募集時期を早め12月10日前後からの募集開始とすることが提案され、承認された。学会賞受賞者講演については、次年度の授賞者から、以前のように受賞翌年度の春季大会での講演に戻すことが承認された。

6. 国際交流委員会報告

事務局より、資料6に基づいて国際交流実績について説明され、了承された。

7. 役員改選 I

新会長、新副会長についての提案があり、会長に焼田党氏（南山大学）が承認された。副会長に長岡貞男氏（東京経済大学）の再任、木原隆司（獨協大学）が推薦され、承認された。

8. 役員改選 II

理事会改選について、野崎常務理事より、常務理事、理事について資料に基づき、説明された。別資料の一部に修正点があったため、修正を説明し、了承された。新常務理事、新理事（2022年6月～2024年6月）は以下の通り。（下線は新任者）

常務理事

成生達彦(同志社大学)、福重元嗣(大阪大学)、永星浩一*(福岡大学)、藤田康範(慶応義塾大学)、野崎竜太郎(久留米大学)**

*総務担当、**財務担当

理 事

青木玲子(公正取引委員会)、秋本耕二(久留米大学)、大川隆夫(立命館大学)、細江守紀(熊本学園大学)、瀧井貞行(西南学院大学)、多和田眞(名古屋大学名誉教授)、田中廣滋(中央大学名誉教授)、坂上智哉(熊本学園大学)、三浦 功(九州大学)、松波淳也(法政大学)、渋谷博幸(豊橋技術科学大学)、森保 洋(長崎大学)、中山恵子(中京大学)、小川 光(東京大学)、大住康之(兵庫県立大学)、堀 宣昭(九州大学)、内藤 徹(同志社大学)、大森達也(中京大学)、渡辺淳一(福岡大学)、大内田康徳(広島大学)、柳瀬明彦(名古屋大学)、瀧本太郎(九州大学)、林田 実(北九州市立大学)、赤羽根靖雅(福岡大学)、石川路子(甲南大学)、伊ヶ崎大理(日本女子大学)、土居潤子(関西大学)、中村大輔(中央大学)、安岡匡也(関西学院大学)、松浦

司(中央大学)、池下研一郎(九州大学)

監 事：森田 充(青山学院大学)

9. 委員改選

野崎常務理事より別資料2に基づいて説明が行われ、承認された。また、今後の事務局体制の方向性について検討したい旨の説明が行われた。

10. 今年度秋季大会について

焼田会長より、10月29日(土)、30日(日)に同志社大学で開催されることが説明され、開催校の内藤理事より挨拶が行われた。

11. その他

細江理事より、応用経済学シリーズベーシックが完売したと勁草書房より連絡があったことが説明され、その印税については学会会計に繰り入れることが提案され、承認された。

報告

1. 西日本支部大会について

西日本支部会事務局担当の池下先生より、西日本支部大会についての開催報告が行われた。

2. その他

なし。

IV. 学会誌『応用経済学研究』編集委員会報告

編集委員会委員長

福重元嗣（大阪大学）

2021年12月以降の投稿論文は、3本ありましたが、次号(16号)への採択論文は、継続審査であった論文が採択されたものを含め8本、再投稿依頼中の論文が1本(不採択の論文は0本)です。

論文の投稿が少なく、次号は例年より多めの論文を掲載できるが、16号の刊行については、現在審査中の論文の採否により掲載論文数を決定したい。論文の投稿を、皆様より推奨していただくことを期待します。

V. 2021年度学会賞について

学会賞選考委員長

長岡貞男（東京経済大学）

2021年度学会賞の選考については、13名の審査委員のご協力を頂き、また、著作賞については、成生達彦先生(委員長)、柳瀬 明彦先生及び木原 隆司先生に審査を頂き、以下の結果となりました。

学会賞

川崎 晃央氏（大分大学 経済学部 教授）

(受賞理由)

川崎氏の御研究の柱は、公企業の民営化(社会余剰最大化を目的とする公企業に利潤追求を付加する)に関する混合寡占市場の理論分析であり、公的企業が社会余剰の最大化を目的としている場合も、部分的に利潤動機を持たせることが、社会厚生を改善させることがあることを、様々な市場環境で理論分析し、それによる多くの成果を欧文査読誌に公表し、この分野の研究のリーダーとなっておられる。最近でも、優れた研究成果を Journal of Industry, Competition and Trade や応用経済学研究に公刊されている。国際ジャーナルに発表している。また、同氏は産業組織の他分野においても、例えば、航空市場におけるハブ・アンド・スポークネットワークの形成や空港民営化等に関する理論分析も行っており、それらの論文も Regional Science and Urban Economics など有力な査読付き国際的学術誌に掲載されており、この分野での貢献も国際的に評価されている。

学術論文賞

「不実表示に対する損害賠償の経済分析」

後藤 剛史氏（南山大学 経営学部 准教授）

(受賞理由)

学術論文賞の選考対象となった業績は、後藤剛史氏の単著論文で、2022年の応用経済学研究(日本応用経済学会編)、Vol.15で公刊されている。本論文は、本論文は不実表示(優良誤認をもたらす表示)による損害に対して、どのような損害賠償ルールに基づいて賠償額を算定するのが社会的に効率的な結果をもたらすのかを、消費者の支払意思額を第三者が把握するのは困難であり、支払意思額の算定コストを導入するという現実的な拡張を行った分析結果を示している。この場合は完全賠償ルールが必ずしもファーストベストを導かないことを示し、さらに、支払意思額に依存しない差額賠償ルールが優越する可能性を明らかにしている。不実表示は市場経済の効率性を下げる重要な政策問題であり、これに対する抑止ルールのあり方についての独自性の高い貢献だと評価される。

著作賞

「日本のマネジメント・バイアウト：機能と成果の実証分析」

川本 真哉氏（南山大学 経済学部 教授）

(受賞理由)

本書は、近年日本でも増加してきている既存経営者等の内部者による買収行為であるマネジメント・バイアウト(MBO)を様々な計量分析手法を駆使して包括的かつ詳細に分析した稀有な文献である。本書は、①日本におけるMBOの情報(非公開化型・大ベストメント型等のタイプ別の件数・金額等、MBOの歴史、ファンド関与、上場等)を包括的に示し、読者にMBOの基礎的な知識を提供するとともに、②各章で

MBO に関する仮説や理論・先行研究を示し、直近までの多くのデータにより、厳密かつ多様な計量経済分析手法を用いて実証している。本分野の分析は、企業研究等の経営史的視点や法務・税務的な研究が多い中で、MBO をテーマとした包括的な実証分析を行った優れた力作である。

VI. 国際交流委員会

国際交流委員会報告

国際交流委員会委員長

大住康之（兵庫県立大学）

1. 韓国経済通商学会（KEBA）への参加

韓国経済通商学会(KEBA)が2021年11月26日に開催され、オンラインにて2名の先生が参加されました。

2. 韓国応用経済学会（KAAE）への参加

韓国応用経済学会(KAAE)は2022年4月22日(金)にハイブリッドで開催され、3名の先生がオンラインにて参加いたしました。

3. 韓国経済通商学会（KEBA）から春季大会への招聘

2022年度のJAAE春季大会は熊本大学での対面開催でしたが、Covid-19の影響により、韓国経済通商学会(KEBA)の報告は、ハイブリッド方式でのセッション開催となりました。5名の方がオンラインで報告しました。

VII. 紹介！研究室

今回は私（安岡匡也（関西学院大学））の研究室を紹介させていただきます。まずはロケーションですが、兵庫県西宮市の上ヶ原キャンパスで教育、研究活動を行っております。今年2月より新しい研究棟が完成し、その新しい研究棟で仕事をしております。



研究内容は「少子高齢社会における社会保障制度のあり方」を最近はテーマとしております。ゼミも必然的にそのテーマに関連した内容となります。私のゼミでは、ゼミ生が学生に授業をするといったことをゼミの課題として課しています。そのような授業経験はゼミ生にとっても結構刺激になっているようです。

また、私の教育上の関心として、いかに楽しく経済学を学べないかというのがあります。具体的には、ゼミ生でボードゲームをやったり、または、社会保障制度が学べるようなボードゲームを作らせたりもしました。コロナの影響でなかなかフィールドワークもできない状況ですが、そろそろフィールドワークも始めたいと考えている所です。これまでフィールドワークとしては、大阪市西成区のNPO法人が主催するスタディツアーに参加するなどの活動をしてきました。

今の大学に来て10年、前任校では5年、その前の研究員では2年と大学院を修了してから振り返ってみれば17年も経とうとしており、最近の若手の研究報告を見ると、年をとってしまったと思えることも増えてきました。しかし、それを学びの機会ととらえてやっていきたいと思

います。

VIII. 学会誌『Studies in Applied Economics 応用経済学研究』への投稿について

編集委員会報告にもありましたように、会員の皆様からの学会誌の投稿をお待ちしております。投稿は随時可能です。投稿規程等については学会Webサイトにてご確認ください。

IX. 編集後記

新型コロナウイルス感染拡大により、対面での学術交流が出来ないまま3年目を迎えました。熊本大学での春季大会、そして同志社大学での秋季大会では対面による開催が実現し、以前のような対面での学術交流に戻りつつあります。今後も、新型コロナウイルス感染に注意しながら、対面での学術交流が行われていくものと考えられます。オンラインでの交流はオンラインでの良さもありますが、やはり対面での交流は様々な学術上における意見が飛び交い、学術交流はこうあるべきだと改めて思いました。

学術交流だけではなく、様々な活動も対面での交流に戻りつつあります。大学の授業についても対面授業での実施が多くなりました。また、旅行客も増えてきて、観光地などでは賑わいが戻りつつあります。

しかしながら、新型コロナウイルス感染の問題はまだ過去のものではなく、学会の運営についてもまだまだ注意深く進めていかなければならない所はあります。会員の皆様には引き続き、ご協力頂ければと思います。今後ともどうか、宜しくお願いいたします。

(安岡 匡也(関西学院大学))

令和3年度 日本応用経済学会 会計報告
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(b)-(a)
繰越金	7,052,956	7,052,956	0
会費収入	4,030,000	3,965,000	-65,000
学会誌収入	60,000	6,000	-54,000
利子収入	1	3	2
(収入小計)	4,090,001	3,971,003	-118,998
合計	11,142,957	11,023,959	-118,998

現金・預金残高

令和3年度期首	小計
ゆうちょ事務センター	6,650,430
ゆうちょ口座	168,174
福岡銀行	175,008
現金	59,344
期首繰越額	7,052,956

令和3年度期末	小計
ゆうちょ事務センター	7,553,140
ゆうちょ口座	268,177
福岡銀行	74,008
現金	115,945
期末繰越	8,011,270

2. 支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a)-(b)
通信費	180,000	137,863	42,137
消耗品費	60,000	28,962	31,038
事務補助費	600,000	123,220	476,780
学会開催補助費	500,000	35,310	464,690
理事会開催補助費	52,500	0	52,500
各種委員会開催費	50,000	0	50,000
シンポジウム等補助金	130,000	100,000	30,000
学会賞	90,000	36,025	53,975
国際交流費	150,000	0	150,000
払込手数料	75,000	68,312	6,688
学会誌購入	2,000,000	1,954,260	45,740
学会webサイト運営費	30,000	28,737	1,263
雑費	20,000	0	20,000
出版助成	500,000	500,000	0
小計	4,437,500	3,012,689	1,424,811
繰越金	6,705,457	8,011,270	-1,305,813
合計	11,142,957	11,023,959	

上記の通り報告致します。

常務理事(財務担当)

会計担当幹事

会計担当幹事

監査の結果、上記相違ありません。

監 事

永星 浩一

池下 研一郎

野崎 竜太郎

森田 充



令和4年度 日本応用経済学会 予算
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額	備考
繰越金	8,011,270	
会費収入	3,950,000	(10,000円×380人)+(5,000円×30人)
利子収入	1	
学会誌収入	0	
(R4収入小計)	3,950,001	
合計	11,961,271	

2. 支出の部

項目	予算額	
通信費	150,000	
消耗品費	50,000	
事務補助費	500,000	事務補助員アルバイト代(3万円×10ヶ月)及び旅費(10万×2) 500,000円
学会開催補助費	800,000	400,000円×2回
理事会開催補助費	120,000	60,000円×2回
各種委員会開催費	50,000	
シンポジウム等補助金	130,000	
学会賞	90,000	
国際交流費	200,000	2人2泊宿泊費(秋季大会1回分)
払込手数料	75,000	
学会誌購入	2,000,000	
学会webサイト運営費	30,000	
雑費	20,000	
学会誌Web化費用	200,000	
小計	4,415,000	
予備費	7,546,271	次期への繰越金予想
繰越金		
合計	11,961,271	